

公開学術講演会

「ネットワークする宗教研究」

2013年9月6日、國學院大學学術メディアセンター一階の常磐松ホールで日本宗教学会主催・國學院大學日本文化研究所共催の公開学術講演会「ネットワークする宗教研究」が開催された。これは國學院大學を開催校として、行われた第72回日本宗教学会学術大会の第一日目の企画である。

日本文化研究所ではこのところ毎年秋に国際フォーラムを開催しているが、日本宗教学会の開催校になったので、共催の講演会という形をとることとなったものである。

講師としてお願いしたのは、ハーバード大学教授で比較神話学者のマイケル・ヴィツェル (Michael Witzel) 氏、総合研究大学院大学教授で生物学者の長谷川眞理子氏、京都大学教授でキリスト教神学の研究者である芦名定道氏の三人である。趣旨説明と司会は、開催校の実行委員長で講演の企画責任者でもある井上が務めた。

ヴィツェル氏は、国際比較神話学会の会長の任にもある。2009年に國學院大學を会場に国際比較神話学会が開催された折にも日本文化研究所の教員と意見を交換したことがある。インド学者として高名であるが、最近は関連分野の研究を参照しながら、世界の神話を総合的に比較していく試みを始めている。会議直前に刊行された同氏の名著 *The Origins of the World's Mythologies* は、翻訳すれば『世界諸神話群の諸起源』という意味になり、その壮大な構想が反映されたタイトルであることが分かる。

長谷川眞理子氏は、生物学、ことに進化生物学で非常に有名な研究者である。『進化と

人間行動』(東京大学出版会、2000年)、『生き物をめぐる4つの「なぜ」』(集英社新書、2002年)、『ヒトの心はどこから生まれるのか—生物学からみる心の進化』(ウェッジ、2008年)、など多数の著書、また翻訳がある。宗教研究とはかなり離れた分野と思う人もいるかもしれないが、最近の研究動向は両者の意外な近さを指摘し始めている。

芦名定道氏は日本宗教学会の常務理事であり、キリスト教神学やキリスト教思想が専門である。しかし、近年は『脳科学は宗教を解明できるか?』(春秋社、2012年)というタイトルの書籍を編集するなど、ニューロサイエンスと宗教研究の関係に強い関心を抱いている。

それぞれ50分ほどの講演をお願いしたが、日本宗教学会の会員の他、いつも日本文化研究所の国際フォーラムに関心を示している研究者も聴講した。1990年代頃から急速に発展したニューロサイエンスの分野、そしてそれに刺激を受けて新たな展開を見せている認知科学の諸領域では、宗教研究にとっても参照すべき重要な研究成果が出てきている。こうしたことに目を広げていくという意味においても、非常に刺激的な講演会であったと言える。

なお、講演会の様子は、スカイパーフェクトTVで2013年10月30日に一時間番組として放映された他、講演の内容と趣旨を書き下ろしたものが、約1年近くをかけての編集され、井上順孝編『21世紀の宗教研究』(平凡社)として2014年8月に刊行された。

(井上順孝)